

## 評価の客観性を確保するために、すべての個別事後評価に 開発途上国専門家の意見を付しています。

評価の客観性を確保するために、すべての個別事後評価について、開発途上国の有識者に評価結果の検証を依頼し、検証結果を途上国専門家の意見として公表しています。途上国専門家の意見は、事業ごとにその要旨を第三者の経歴とともに紹介していますが、下記に例として「中都市上水道整備事業」(P.90参照)に対する途上国専門家の意見を全文掲載しています(他の事業についての途上国専門家の意見(全文)は、当行ホームページをご覧ください)。

### 開発途上国専門家の意見(全文) 40 コスタリカ「中都市上水道整備事業」



リナ・コントレーラス氏

大統領顧問、大統領府大臣、国会議長等を歴任。現在は民間コンサルタント。国会議員時代には、社会問題、国際関係等幅広い分野において指導力を発揮した。

#### 妥当性

住民に供給される水道水の質の向上は、数次の国家計画に示されているように、コスタリカ政府にとって優先度の高い事項です。上・下水道システムの修復、水資源の保護等に関しても非常に重要な実施目標です。コスタリカ政府にとっての上位目標は、環境的にも持続可能な方法ですべての住民に対し安全な水へのアクセスが確保されることです。

本事業は、雇用が限られ所得水準も低いとされていた地方の中規模都市(6地域)の住民合計約23万人を対象に、上述の事業効果を図るべく実施されました。事業実施前、それらの都市において人口の流入が顕著であり、水供給サービスへの需要が高い状況でした。一方で、住民は井戸や水資源・取水口の汚染、塩素消毒不足、配管の不良等に起因する下痢性疾患や肝炎等の病気にも頻繁に苦しめられていました。また水供給業務を担当する上下水道庁の地方事務所の管理業務量が限界に至り、その対応は極めて困難でした。したがって、本事業の実施がいかに重要であったかは自明の理といえます。事業完了後、当実施機関の運営能力

が向上したことも手伝って、より効率的で質の高い水供給が実現した結果、住民の生活水準の向上、ひいては更なる雇用の創出にまで結びつくなど、より高いレベルでの開発が実現しました。

#### インパクト

本事業がなければ到底実現は不可能であった地方都市での水道水へのアクセスが増加した結果、観光産業が促進され、農業生産性も向上しました。これにより雇用の増加や所得の向上が促進され、また住民の健康指標データも改善し、住民にとっての裨益効果・インパクトは複合的に発現しています。また、取水・配水システムが的確に整備・使用されていることによる水資源の保護が進んだことも環境面でのプラスのインパクトとして認められます。

実施機関、ひいてはコスタリカ政府側へのインパクトとして、地方事務所設立の際に職員への運営・維持管理、取水・配管・サービス向上のためのトレーニングを実施したことが、本事業を通して得られた業務上の効果といえるでしょう。顧客へのサービスを向上するための研修の実施、正確な水道料金の把握、回収が可能となるメーターの設置作業が全体の運営・維持管理能力の向上に寄与しています。

#### 連携効果

国際協力銀行(JBIC)、米州開発銀行(IDB)、コスタリカ上下水道庁(AyA)、ならびに建設業者の有機的な連携が本事業の効果発現に寄与したことも特記すべき点です。